

平成26年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 7

主要事業名	鹿嶋市の歴史・文化・伝統の普及と発信				作成日	H27.7.21	
					担当課名	社会教育課	
事業の性質	法定受託 事務		自治事務 (義務)		自治事務 (任意)	○	市民サービス 建設事業
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定		年度から 年度まで

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ				②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ			
重点目標	3	郷土理解教育と国際理解教育の推進		基本目標	4	人が輝くかしま	
体系項目	(1)	郷土理解教育の推進		基本政策	7	学び楽しむまち	
個別施策	②	伝統文化の保護と継承		基本施策	5	文化・芸術の振興	

根拠法令等	教育基本法 教育の目標（2条）
-------	-----------------

2 事業概要（Plan）

事務事業の概要・背景	歴史的建造物と伝統的な人々の営みが一体となった「歴史的風致」を語り継ぎ、より多くの市民に知ってもらおうとともに、意識の維持向上のための各種事業を行い、歴史・文化・伝統を大切にしまちづくりの推進につなげる。
目的（事業の目指すところ）	郷土に残る伝統文化や行事は、そこに生活する人々にとって、新しい文化の形成や豊かな人間関係を構築するうえで重要である。そのため、鹿嶋市の伝統文化に触れる機会として、「鹿嶋子ども歴史探検隊事業」や「ふれてみよう世界の文化事業」、「鹿嶋の民話」「市民音頭」の普及活動を実施する。また、歴史文化に関する展示施設の内容を充実させ、郷土への誇り、愛着を深めるとともに、次代に語り伝える後継者育成を図る。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡巡りで歴史にふれ、知識を身に付ける。また、外国人からその国の言葉や文化を学ぶ ・語り部の会による出前講座の実施と舞踊連盟による祭り等での普及活動の実施 ・郷土検定の問題作成、大会への参加 ・歴史文化に関する展示施設の内容の充実
国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	茨城県では、「いばらきっ子郷土検定」事業を、県内中学2年生を対象に実施した。鹿嶋市においても、鹿嶋市独自の問題による予選大会を市内中学校で一斉に行い、代表校として高松中学校が県大会に出場し、県3位という成績を残した。

3 数値目標と実績（Do）

数値目標	目標内容	単位	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
			(実績)	(予定・見込)	(予定・見込)	(予定・見込)	(予定・見込)
	鹿嶋市こども歴史探検隊参加者	人	16	20	30	30	30
	ミニ博物館ココシカ入館者	人	6,754	7,000	8,000	9,000	10,000

投入コスト	全体計画		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
			(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)
事業経費	鹿島の民話語り事業		50	50	50	50	50
	市民音頭普及事業		30	30	30	30	30
	鹿嶋子ども歴史探検隊事業		162	162	162	162	162
	ふれてみよう世界の文化事業		136	0	0	0	0
	いばらきっ子郷土検定事業		6	6	6	6	6
	ミニ博物館管理運営事業		6,044	6,045	6,045	6,045	6,045
	合計		6,428	6,293	6,293	6,293	6,293
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他(参加者負担金)						
	一般財源		6,428	6,293	6,293	6,293	6,293
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		1	2	2	2	2
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）		3	3	3	3	3

3 具体的施策評価 (Check) 主要事業名:鹿嶋市の歴史・文化・伝統の普及と発信

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標 に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善 の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①鹿嶋の民話・市民音頭の普及 【比率: 10%】	①語り部出前講座の開催(昨年度は45回) ・語り部養成講座の開催(1回) ②市民音頭普及のためのイベント参加(昨年度は年3回)	①地域の歴史、文化に関することを広く普及させ、また後世に伝えていける人を育成する。 ②市民音頭を普及させ、地域を超えた幅広い年齢層の方々への一体感を生み、地域の基盤を安定させる。	①語り部の活動を49回開催 ・児童クラブで11回開催 ・語り部養成講座を実施。参加人数2名 ②市民音頭普及のため、桜まつり、鹿嶋まつりの2回イベントに参加。	①子どもたちを含む多くの市民が、方言を使った鹿嶋の民話を聞き、鹿嶋市に伝わる言い伝えや伝説にふれ、郷土の歴史文化に触れた。また語り部の人材育成も行った。 ②年齢も住む地域も違う人達が、市民音頭を通して交流することができた。	①地元言葉で、地元民話を語り、鹿嶋市の文化を伝えた。また語り部養成講座を開き、後継者の育成も図った。 ②人が多く集まるイベントに参加することにより、市民音頭の普及を図った。	個別事業実績評価点: 6.5 [課題] ①語り部養成講座の受講人数をどう増やすか。常時語り部を聞ける場所の設定。 ②イベントのほかに、市民音頭に触れる機会をどう増やすか。
②文化体験事業 【比率: 30%】	①鹿嶋子ども歴史探検隊 ・対象 小学4・5・6年生 6回実施 ・魅力ある探検プログラムの構築 ②ふれてみよう世界の文化 ・対象 小学3・4・5年生 5回実施 ・外国人の講師による学習プログラムの構築	①子ども達が郷土の歴史文化に理解と愛着を持ち、次代に継承していけるように、実際に遺跡を周り、歴史文化に触れて学べる機会を提供する。 ②海外の文化に触れ、視野を広げ、国際化時代に対応できる人材の育成を図る。	①参加児童16人、6回実施。 「アンケート実施」 楽しかった⇒100% 歴史に興味を持った⇒100% ②参加児童6人で5回実施した。 ③6か国の講師からその国の言葉や食文化等について学んだ。	①子どもたちがバス等を使って史跡を巡り、歴史文化を学ぶ機会を提供し、楽しみながら、郷土の歴史に興味を持つことができた。 ②子どもたちが外国人の講師とそれぞれの国の言葉で挨拶や自己紹介をし、海外の文化に触れ、視野を広げることができた。	①市内の史跡巡りや本市に関連の深い地域の史跡や博物館を巡り、歴史と文化に対する興味を持ち、楽しく学べるよう努めた。 ②関係者や講師の方々と連絡を取り合い、子どもたちにとって魅力的な体験となるように努めた。	個別事業実績評価点: 22.7 [課題] ①参加者の中には、リピーターがいるが、参加人数でいうと増えていない状況がある。開催時期やプログラムの更なる検討に努め、参加者の拡大を図る。 ②昨年度より対象学年を増やしたが、参加者の減少と、委託先からの負担の声があるので、別事業と絡めるなどの対応が必要となる。
③いばらきっ子検定事業 【比率: 10%】	検定問題の作成(50問) ・市大会の実施 ・県大会出場	郷土検定を実施し、子どもたちの郷土の歴史文化や風土への理解関心の向上を図る。	・郷土検定の問題を50問作成した。 ・市町村大会を開催し、高松中学校が鹿嶋市の代表校として県大会に出場した。	子どもたちが郷土の歴史文化や風土について理解、関心を深める機会になった。また、高松中学校が県大会へ出場し、3位という成績を残し、子どもたちに自信が付き、郷土について学ぶ意欲も向上した。	子どもたちが郷土に興味をもつような問題の作成に努めた。 高松中学校の上位入賞の成果を告知し、他の中学校の意欲向上を図った。	個別事業実績評価点: 7.6 [課題] ・問題の修正、関心のもてる新しい問題の作成。 ・今後も子どもたちの郷土への興味理解を伸ばし、成績を残すための方策の策定。
④ミニ博物館コソシカの健全運営 【比率: 30%】	・特別展の開催(年3回) ・常設展示の充実のため、展示コーナーの増設 ・入館者の増加(昨年度は7,400名) ・人件費 3,537,931円 ・賃借料(建物) 1,404,000円 その他経費(消耗品費、光熱水費等) 1,102,069円	鹿嶋市民や、鹿嶋市への観光客を対象に、鹿嶋市の歴史文化や伝統行事について情報提供を行い、鹿嶋市への歴史文化への理解の向上を図る。	・特別展「御船祭」、「鹿嶋を伝える写真展」、「鹿島神社悠久の歴史を掘る」、「ひな祭り〜祭頭祭〜端午の節句」を開催。 ・常設展に「日本神話と健甕神」コーナーを設置。また古民家の模型の設置。 ・6,754名の入館者があった。	・鹿島神社門前町という地の利を活かし、随時鹿嶋市の歴史文化に関する展示をおこない、市の内外へ対し、鹿嶋市の歴史や文化を広められた。	平成26年は12年に一度の御船祭が開催されたため、それに関する展示を充実させ、鹿嶋の歴史文化と伝統行事に対する興味関心を高めることができた。 HP、新聞、FMかしま、情報誌などのメディアを活用したり、鹿島神社へチラシを置くなど、展示やイベントの情報幅広く発信した。	個別事業実績評価点: 23.7 [課題] ・展示内容の平易化 ・二スと時節に応じた展示や企画の開催。 ・ほとんどが市外からのお客であるため、地元市民を呼び込むために広報活動などを進める必要がある。 ・企画やイベントの周知活動の徹底
⑤どきどきセンターの展示活性化 【比率: 20%】	・企画展の開催(年1回) ・歴史講演会の開催(年1回) ・入館者の増加(昨年度は1,066名)	市民や市外の方に対し、博物館の代替施設として、企画展示等を実施し、鹿嶋市の歴史文化を周知する。	・企画展「鹿島神社」開催 ・企画展の移動パネル展示を行った(大野ふれあいセンター、勤労文化会館)。 ・歴史講演会: 楢山林継「祭記者古学からみた鹿島神社」開催 ・1,515名の入館者があった。	・企画展やイベントを開催し、鹿嶋市内外へ鹿嶋の歴史や文化への関心を高めることができた。	平成26年は鹿島神社に関する展示や講演会を行い、鹿島神社を中心として郷土の歴史文化の情報提供をすることで、理解を促した。	個別事業実績評価点: 13.0 [課題] ・どきどきセンター利用者の増加を図るための企画 ・学校教育と、どきどきセンターの活動をどのように関係させていくか。 ・どきどきセンターの活動や企画展示の周知徹底を図る。

4 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~C	合計点数	73.4	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	B
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 子どもたちを含め、鹿嶋市の歴史や伝統文化に触れる機会が減ってきている。郷土に残る歴史や文化、それに係る行事は、新しい文化の形成や豊かな人間関係を構築するうえで重要なものである。そこで、「鹿嶋子ども歴史探検隊事業」や「ふれてみよう世界の文化事業」、「鹿嶋の民話」「市民音頭」の普及活動を実施し、郷土の歴史文化へ触れる機会を提供し、その理解と興味を深められた。「いばらきっ子郷土検定」事業では、鹿嶋市からは高松中学校が市の代表として出場し、優れた成績を残せた。					
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	鹿嶋市の貴重な歴史文化の周知を通じて、郷土への理解と郷土愛、郷土への誇りを醸成するためこれらの事業は継続していきたい。			
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 郷土の歴史や文化を伝えていくために、まず地元の人に興味を持ってもらうこと、その上で子どもたちの興味理解の向上や、語り部など、後世へ伝えていける人の育成が重要な課題である。					
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 語り部の養成講座を充実させる。大人も子どもも、伝統行事に参加する機会や、歴史文化について学ぶを増やす。					

平成26年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 8

主要事業名	英語教育の充実					作成日	H27.7.29
						担当課名	教育指導課
事業の性質	法定受託事務		自治事務(義務)	○	自治事務(任意)	市民サービス	管理経費
						建設事業	その他
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定	年度から	年度まで

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ				②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ			
重点目標	3	郷土理解教育と国際理解教育の推進		基本目標	4	人が輝くかしま	
体系項目	(2)	国際理解教育の推進		基本政策	7	学び楽しむまち	
個別施策	①	小中学校での英語教育の充実		基本施策	2	学校教育の充実	

根拠法令等	—
-------	---

2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	現在、中学校・高等学校では、「国際的に通用する実践的コミュニケーション能力」を身に付ける教育が行われており、高等学校におけるオールイングリッシュの授業が定着し、今後は中学校においてもオールイングリッシュでの指導が求められる。市において実践しているこの小学校6年間の英語活動の時間及び中学校3年間のコミュニケーション英語の時間は、国際的に通用する基礎的な実践的コミュニケーション能力の意図的な育成の場となっている。
目的（事業の目指すところ）	英語を母国語とする英語指導助手を各小中学校に配置し、小学校1年生及び2年生は英語に親しむことを重点に、小学校3年生及び4年生は英語表現に慣れ親しむことを重点に、小学校5年生及び6年生は英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けることを重点目標にしている。 中学生は、小学校で慣れ親しんだ会話中心の英語教育から、ライティング力やリーディング力を含む総合的な英語力向上に努める。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> 小学校全校への外国人講師（NLT）、中学校全校への英語指導助手（ALT）の配置 小学校英語活動カリキュラムとコミュニケーション英語カリキュラムの実施 英語科教員研修会及び訪問指導の充実
国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	社会や経済のグローバル化が急速に進展する中、英語力の向上は教育界のみならず産業界など様々な分野に共通する喫緊かつ重要な課題である。また、英語の授業にあたっては、学習指導要領においてネイティブ・スピーカーの活用に努めることが明記されており、今では殆どの自治体が英語指導助手による英語教育を取り入れている。

3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
			(実績)	(予定・見込)	(予定・見込)	(予定・見込)	(予定・見込)
数値目標	小学校英語活動意識調査	%	肯定的回答85%	肯定的回答86%	肯定的回答87%	肯定的回答88%	肯定的回答89%
	中学校英語能力判定テスト	%	英検3級程度27.4%	英検3級程度28.5%	英検3級程度30%	英検3級程度31.5%	英検3級程度33%

投入コスト	全体計画		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
			(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)
事業経費	指導業務委託（小学校）		64,882	54,372	54,372	54,372	54,372
	うち人件費		54,557	47,105	47,105	47,105	47,105
	運営費		10,325	7,267	7,267	7,267	7,267
	英語コンサル業務委託（小学校）		14,612	10,184	10,184	10,184	10,184
	指導助手委託（中学校）		21,922	21,889	21,889	21,889	21,889
	合計		101,416	86,445	86,445	86,445	86,445
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他(参加者負担金)						
	一般財源		101,416	86,445	86,445	86,445	86,445
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		2	2	2	2	2
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）		—	—	—	—	—

3 具体的施策評価 (Check) **主要事業名:英語教育の充実**

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①小学校全校に外国人講師(NLT)、中学校全校に英語指導助手(ALT)を配置 【比率: 25%】	ネイティブとの会話経験を積み重ねることにより、臆さずに英語を話したり聞いたりできる基礎的な実践的コミュニケーション能力を育成するため、市内全小中学校へNLT・ALTを配置する。	・もっと英語を話せるようになりたいと感じている児童の割合 90%以上 ・アトリスにおける生徒のコミュニケーションに対する関心・意欲・態度ランク 平均B+以上	市内全小中学校へのNLT・ALTの配置について、計画通り全校配置した。	・もっと英語を話せるようになりたいと感じている児童の割合 93%(+3%) ・アトリスにおける生徒のコミュニケーションに対する関心・意欲・態度ランク 市内平均B+	児童生徒の実態に配慮したNLT・ALTを配置し、ネイティブと英語でコミュニケーションをとる楽しさをより感じさせるため、日常的に子どもたちと触れ合うよう定例ミーティング(月1回)を通して外国人講師に助言した。	個別事業実績評価点: 22.4 [課題] チームティーチングにおける外国人講師と日本人指導者の授業に対する共通理解
②小学校全学年において、小学校外国語活動の教科化を踏まえた市独自の英語カリキュラムで英語活動を実施 【比率: 25%】	小学校外国語活動の教科化を踏まえた質の高い英語カリキュラムを小学校全学年に導入し、英語活動を実施する。	・英語を話すことは楽しいと感じる児童の割合 80%以上 ・児童英検正答率 80%以上	市独自のカリキュラム及びリフレクションカードによる指導を完全実施し、カリキュラム通り全校実施した。	・英語を話すことは楽しいと感じる児童の割合 76.%(−4%) ・児童英検80.8%(+0.8%)	英語教育推進協議会(年3回)及び新任学級担任英語活動研修会、英語活動夏季研修会、英語活動公開授業を通して、円滑にカリキュラムが進められているかどうか、各校の進捗状況を確認しながら進めた。	16.3 [課題] 小学校外国語活動の教科化を踏まえた担任教師の資質の向上
③中学校における英会話を中心とした「コミュニケーション英語」カリキュラムの実施 【比率: 25%】	小学校英語活動で培ったコミュニケーション能力の基礎をさらに伸ばすために、市内全中学校において週1時間英会話を中心とした「コミュニケーション英語」を実施する。	・中学校3年生において英語能力判定テスト英検3級レベル以上 全体の30%以上	市内全中学校におけるコミュニケーション英語カリキュラムを作成し、カリキュラム通り実施した。	中学校3年生において英語能力判定テスト英検3級レベル以上 全体の27.4%(−2.6%)	ALTの指導力向上を図るためのコミュニケーション英語授業参観と事後の研修会を月1回ずつ実施するとともに、コミュニケーション英語公開授業と研究協議会を通して、授業の質の向上を図った。	個別事業実績評価点: 16.3 [課題] 英語科の年間指導計画との関連を図るためのカリキュラムの見直し
④英語活動及びコミュニケーション英語における訪問指導の実施 【比率: 25%】	全小中学校とも年間2回、英語活動及びコミュニケーション英語における訪問指導を通して、各校のニーズに応じた研修会を実施する。	訪問指導により、各校の課題を明確にする。	全小中学校へ年間2回ずつ訪問(合計 小学校24回 中学校10回)を計画通り実施した。	年度当初に配付した鹿嶋市学校訪問要項を配付し、授業改善の視点を周知した上で訪問を実施したため、各校の課題を明確にした研修会となった。	英語訪問(小学校12校)、英語ミニ訪問(小学校12校)、コミュニケーション英語授業訪問(中学校5校)を実施し、指導を受けたい点や課題等を明確にして教師に授業を公開させ、必要かつ確かな指導が受けられるようにした。	個別事業実績評価点: 16.3 [課題] 訪問指導の内容及び全体会の工夫・改善

4 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。	合計点数	71.1	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	B
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 2020年に向け文部科学省が英語教育の方向性を打ち出す等、「国際的に通用する実践的コミュニケーション能力」を身に付ける英語教育は将来的にも必要不可欠である。小学校においては、質の高いカリキュラムに基づく指導が各校とも同様に実施されているため、他市に比べ英語教育の質が確実に保障されており学校による差も生じていない。また、中学校においては外国人講師の効果的・有効的活用がなされ、授業公開時には他市からの参観依頼も多い。					
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	今後、グローバル化に対応できる人材の育成はさらに重要であり、継続して英語教育を推進して行く必要があるため。			
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 ・中学校における英語科指導の質の向上及び4技能を総合的に育成する指導の工夫改善。 ・2020年に向け文部科学省が打ち出した英語教育の方向性と本市の英語教育計画のすり合わせ。					
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 ・中学校において、4技能を総合的に育成する指導の改善・充実を図るための、現行の「コミュニケーション英語」のカリキュラム及び指導法についての見直しを今年度中に行う。 ・2020年に向けた文部科学省の方向性を考慮した本市の新しい英語教育計画の策定を図る。					

平成26年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 9

主要事業名	中学生国際交流事業				作成日	H27.7.22	
					担当課名	鹿嶋っ子育成課	
事業の性質	法定受託 事務		自治事務 (義務)	○	自治事務 (任意)	市民サービス	管理経費
						建設事業	その他
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定	年度から	年度まで

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ				②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ			
重点目標	3	郷土理解教育と国際理解教育の推進		基本目標	3	活力あるかしま	
体系項目	(2)	国際理解教育の推進		基本政策	5	多様な交流のあるまち	
個別施策	(2)	異文化理解と交流活動の充実		基本施策	2	多様な交流活動の推進	

根拠法令等	—
-------	---

2 事業概要（Plan）

事務事業の概要・背景	中学生国際交流事業は平成16年度からスタートして、これまで453名の生徒を海外に送り出してきた。これまで、韓国・西帰浦市、中国・塩城市、オーストラリア・カラウンドラ市、カナダ・ニューウエストミンスター市との交流の経過があり、平成26年度は中学2年生18人を韓国・西帰浦市に、中学3年生20人をカナダ・プリティッシュコロンビア州に派遣した。
------------	---

目的（事業の目指すところ）	将来の鹿嶋市を担う中学生が、小・中学校で学んできた英語を実践しながら、韓国やカナダでホームステイ等を経験することで、日本や鹿嶋の風土、歴史、文化などを再認識しながら、違いがわかり、かつ相手を理解することができる国際人としての感覚を養うことを目的とする。
---------------	--

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の周知・PR ・合同研修会の実施 ・報告書の作成・配付
------------	--

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	県内で韓国の都市と姉妹都市協定を結び、ホームステイを含む中学生相互交流を行っているのは鹿嶋市だけである。この事業では韓国・西帰浦市とこれまで7回相互交流を実施している他、カナダプリティッシュコロンビア州への派遣は2年連続募集定員を超えるなど市民からの評価も高い。
--------------------------	---

3 数値目標と実績（Do）

数値目標	目標内容	単位	26年度 (実績)	27年度 (予定・見込)	28年度 (予定・見込)	29年度 (予定・見込)	30年度 (予定・見込)
		事業参加人数	人	30	20	44	44

投入コスト	全体計画		26年度 (決算額：千円)	27年度 (予算額：千円)	28年度 (計画額：千円)	29年度 (計画額：千円)	30年度 (計画額：千円)
	事業経費	旅費	198	91	91	91	91
	負担金、補助及び交付金	9,530	2,500	3,500	3,500	3,500	
	合計	9,728	2,591	3,591	3,591	3,591	
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他(参加者負担金)						
	一般財源	9,728	2,591	3,591	3,591	3,591	
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）	2	2	2	2	2	
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）						

3 具体的施策評価 (Check) 主要事業名: 中学生国際交流事業

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A: 予定を上回る B: 概ね予定通り C: 予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①国際交流事業実行委員会を組織 【比率: 10%】	市内6中学校、鹿嶋市国際協力協会及び教育委員会から委員を選出し、年3回、会議を実施する。	事業参加希望生徒の選抜。	・市内6中学校から7人、鹿嶋市国際協力協会から1人、教育委員会から1人の計9人委員を選出。 ・会議3回実施(4/16, 5/16, 6/4) 評価: B	事業参加希望生徒の選抜。 (カナダ応募者人数23名から12名を選抜。韓国応募者人数18名の審査) 評価: B	会議以外でも、委員の先生との連絡を密に取り、円滑に事業を実施できるようにした。 評価: A	個別事業実績評価点: 7.6 [課題] 事業終了後の総括をする機会を設けることができなかった。
②参加生徒対象事前研修会の実施 【比率: 10%】	語学研修を主とした事前研修会の実施。 ・カナダ…3回 ・韓国…5回 ・合同研修会…1回	事前研修を通して、学校及び鹿嶋市の代表としての自覚を持たせる。 事前に訪問国の文化や言語を学習し、語学への関心を持たせる。	・カナダ…派遣前2回、派遣後1回の語学研修等実施。 ・韓国…受入前1回、派遣前4回の語学研修等実施。 ・合同研修会…派遣後1回実施 評価: B	他校の中学生間でも連帯感が生まれ交流の輪が広がった。研修を通じて、語学に更なる興味を持つことができた。 評価: A	合同研修を行うことで、一過性のイベントで終わらせない工夫をした。 評価: B	個別事業実績評価点: 7.9 [課題] 部活や大会等に被らないような日程調整。
③姉妹都市韓国西帰浦市との相互交流事業の実施 【比率: 35%】	市内に住所がある中学2年生を対象に3泊4日の日程でホームステイを含む、受入と派遣の相互交流を実施(定員20名)。	将来の鹿嶋市を担う中学生が異国でのホームステイ等を経験することで、日本や鹿嶋の風土、歴史、文化などを再認識し、相手を理解することができる国際人としての感覚を身につける。	6月14~17日に受入実施。 10月24日~27日に派遣実施。 応募生徒18名。 参加生徒18名。 評価: B	韓国の生徒と接することで、自分に自身を持つような言動が見られた他、生徒全員が海外に更なる興味を持てた。 評価: A	生徒の中からリーダーを選出し、発表曲の練習等、生徒達の自主性を重んじた。 評価: B	個別事業実績評価点: 28 [課題] 参加人数の定数確保。定員20名に対し18名の応募があった。2年連続の定員割れとなり、事業の周知方法に改善が必要である。
④カナダプリティッシュコロンビア州への派遣事業の実施 【比率: 35%】	市内に住所がある中学3年生を対象に9泊11日の日程でホームステイを実施(定員12名)。	小・中学校で学んできた英語を実践しながら、異国でのホームステイ等を経験することで、日本や鹿嶋の風土、歴史、文化などを再認識することができる国際人としての感覚を身につける。	7月31日~8月10日に派遣実施。生徒達は各家庭に9日間ホームステイをした。 応募生徒23名。 参加生徒12名。 評価: B	ホームステイを9泊行い、日常では得られないネイティブの英語を長時間吸収し、英語取得への励みとなった。 評価: A	現地学生とのスポーツアクティビティを取り入れた。 評価: A	個別事業実績評価点: 31 [課題] カナダの学校は夏休み中であり、語学学習が日本の生徒だけで行ったのは改善の余地有り。現地学生と交流する機会を増やしたい。
⑤報告書の作成 【比率: 10%】	事業参加生徒及び引率者の感想をまとめた報告書を作成し、3月末日までに関係者及び関係機関に配布。	記録を残すと共に、事業の周知ツールとする	70部作成、3月20日配付。 (配付先…参加生徒、実行委員、各中学校、中央図書館、中央公民館等) 評価: B	参加中学生たちの経験を記録として残すことにより、参加者以外にも事業の意義を共有することができた。 評価: B	写真を多く取り入れることにより、現地での様子が分かりやすくなった。 評価: B	個別事業実績評価点: 6.5 [課題] 卒業式までに作成・配付できれば尚良し。

4 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0, B=0.65, C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。		合計点数	80.9	A: 合計点数が80点超 B: 合計点数が50点超80点以下 C: 合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 平成25年度に引き続き、中学生の国際交流事業は韓国とカナダの二カ国で実施した。参加生徒は韓国・西帰浦市が中学2年生18人、カナダが中学3年生12人であった。						
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	海外の都市との相互交流を実施している自治体は県内でも少なく、学んできた英語を活かせる貴重な機会である。				
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 韓国・西帰浦市への派遣は平成25年度に引き続き、定数割れとなった。事業の目的・主旨を保護者及び生徒に工夫し伝える必要がある。カナダ・プリティッシュコロンビア州への派遣は、予算規模に対し、参加中学生が少ないこともあり費用対効果の点で見直しが必要とされている。						
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 事業周知の強化(P.Rチラシの作成、各中学校での呼びかけなど…3月下旬~5月上旬まで)。カナダ・プリティッシュコロンビア州への派遣から国内英語研修施設への派遣へ見直し【予算規模の縮小(カナダ6,000千円から国内1,000千円)・参加人数生徒枠の増加(カナダ12人から国内24人へ)】						